

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑

広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

Tel:06-6493-3731

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑



園田苑で毎朝恒例のラジオ体操！
音楽に合わせ1，2，3♪

春休み“みんなでお昼ごはん会”、野土香で始まる

理事長 中村 大蔵

3月22日より宅老所「野土香」で“春休み、みんなでお昼ごはん会”が始まる。

「野土香」が出来たのは2002年9月。それまで8年間、戸ノ内地区で高齢者への食事サービスとミニデイサービスを実施していたボランティアグループ「陽だまりクラブ」が、同地区にあった空き家を見つけ、当法人が日本生命財団の支援を受けて改装したのが「野土香」である。それまで会場を転々としながらやっていたのが、ようやく定まった場所で行えるようになった。

以来、今日まで週3回、高齢者への食事サービスを提供してきた。維持管理は苑が行い、実際の運営は「陽だまりクラブ」と苑が協働して当たってきた。

今回、当法人が「園田地区子育て支援連絡会」の一員として、「野土香」を会場に“子ども食堂”を始める。まずは春休みの期間から着手する。対象は市立園田東小学校の児童など約10名である。

子どもたちと一緒に昼ごはんを作り、ごはんの後は、みんなで宿題やゲームをしたり、楽しいひとときを過ごす。

単なる空き時間帯の有効利用にとどまるだけではない。連絡会の趣旨「赤ちゃんから青少年まで、すべての“子育て”を、地域の課題とし支援者とともに成長する」ことを目的とする。

子どもの問題は家庭と社会の問題。社会の問題はみんなが関わる問題。今や子どもの貧困が大きな社会問題となっている。「昼ごはん会」は小さな取り組みではあるが、次世代を担う子どもたちを地域で支援することにつながる。

春を呼び込む

～たくさん福が来ますように～



2/3 は節分という事で2階フロアの皆さんで巻き寿司を自分たちで巻いて食べました。巻いている時はお話をしながら楽しんで巻いていた皆さんでしたが食べる時になると南南東を向きながら無言でペロリ。大きな巻き寿司でしたが、一気に食べておられました。節分になぜ普通の寿司でなく、巻き寿司を食べるのか。

【福を巻き込む】という意味があるそうです。

なぜ巻き寿司を切らずに丸ごと食べるのか。

【縁を切らないように。】という意味があるそうです。

今年もたくさん良い事があると良いなと感じた節分でした。

皆さんの願いが叶いますように。



数日前の寒さが嘘の様に暖かい季節になりました。

入居者と日向ぼっこ。お菓子を食べながら歌を歌ったりと体も心もぽかぽか。

そろそろ毎年恒例朝の朝日浴が出来そうです。私にも春が来ないかなあ…。笑

今年のお花見はお弁当を持ってどこに行きましょうか。楽しみがいっぱいです。

(特養主任 山崎 優花)

2月11日丸橋公園で毎年恒例のふるさと雪まつりがありました。

今年で21回目だそうです。ここ数年天気が悪く寒い日が続いていたようです。今年はお天気が良く過ごしやすかったのですが雪が直ぐにとけてしまいちびっこちゃん達服がドロドロになりながらも尼崎では珍しい雪に触れて楽しそうに遊んでいました。特養からは藤原さん・野澤さん・光本さんをお連れしました。職員の娘さん(中学生)が吹奏楽部で演奏しており、藤原さんと聞き入っておりました。施設長に買って頂いた美味しいコロッケを頬張りながら！！1つ…2つ…もう食欲が止まりません！！毎年恒例の鎌田さん特製のカレーを一生懸命売っている横で一生懸命そのカレーを皆で食べました。デザートにつき立ってお餅の入ったぜんざいを食べ・・・(山根はプラスせんべい汁)満腹になったところで藤原さんの「一旦来たところに帰ろう」で帰路につきました。

お天気が良かったからか沢山の人で賑わっておりました。何となく皆外出慣れしていない様子でもっともっと外に出なければと思いました。それにはやはり！体調管理もしっかりしなければと心から思いました！！(特養副主任 山根 靖恵)



地域とスクラムを組んで

～高齢者見守り安心委員会交流会～

2月24日、園田地区会館での「高齢者見守り安心委員会交流会」に参加して、地域の住民の方が高齢者の見守りをされているお話を聞いて、とても素晴らしい取り組みだなと思いました。

私ごとですが、地域包括支援センターに配属される前には、震災復興住宅や地域サポート型特養の事業で見守りをしていました。そこで独居高齢者との関わりで感じたことは、独居の高齢者のお宅を訪問してくる方は、とても少ないということです。独居高齢者のお話をお聞きしていると、誰とも話さない日が多々あるという方が多いです。ずっと話さないでいると気がめいるとおっしゃられる方もおられました。そういった意味で、何も言わずに孤独と戦う高齢者を応援するいい取り組みだと思います。

また高齢者見守り安心事業は、近くに住む地域住民(見守り委員など)の方が、高齢者宅を訪ねるという事で、高齢者の方とともにその地域に住む方が、見守り事業の対象の高齢者から生活の身の上話など、生の声を聞き、高齢者が抱える課題をお互い考える機会にもなりうる取り組みだなと思いました。



高齢者の近くで、実際にお話を聞かれ、親身になって活動されている見守り委員の皆さん、高齢者福祉に携わる包括職員として心強い存在に感謝しています。

ただ、皆さんおっしゃっていましたが、見守り委員さんのできる事にはやはり限界があり、それをわれわれ専門職がどうささえていくかというのも重要な課題であると思います。民生委員さんや見守り委員さんとわれわれ専門職が足りない部分を補完しあい、うまくスクラムを組んでいければいいなと感じました。

(尼崎市「園田南」地域包括支援センター 社会福祉士 三浦 佳幸)

野土香 やろうカフェ

第2・4水曜日 13:00~15:00



男性の参加大歓迎です。将棋や食事をやろうなど
どんどん声を聞かせてください!!

今後の予定

- 3月23日 (子ども食堂)
地域の子どもとふれあう会
- 4月13日 茶話会
- 4月27日 映画
『幸せの黄色いハンカチ』
- 5月11日マジックショー
(13時半~)

場所：戸ノ内 野土香(戸ノ内町3丁目6-46)

連絡先：尼崎市「園田南」地域包括支援センター ☎06-6494-8087

ケアマネも勉強しないと取り残される世の中 ～事業所次第で利用者の生活が変わる?!～

第6回 阪神南圏域地域医療連携セミナー
テーマ「老衰に医療がどこまで介入するか」
～特別養護老人ホーム 芦花ホーム常勤医
石飛幸三先生の基調講演～2月13日開催
超高齢化社会の日本で、穏やかな最期を迎える為に何ができるのか。生きている人間は最期、必ず死を迎える。その最期に到達するまでに、医療はどこまで介入すべきか。医療は命を助ける事が使命であるが、病院で管だらけの最期になっても病院に送る事が、人間らしい最期を迎えられる事になるかを考える。

芦花ホーム入居者さんのある事例発表があった。
胃瘻をしているが、老衰で終末期を迎えるにあたり、家族さんの判断で無理に食べさせなくても良いとの話になった。
食べなくなって10日間、その後、点滴もせず。吸引の必要もなし。そうすると、呼吸苦なし。何も食べていなかったが最後まで尿が出て最後の代謝で体の中を整理して、余計なものを取らずして自然に老いて死を迎えた。医療の介入が全てではなく、人間として尊重された人間らしい最期ではないか。何もしない事も素晴らしい。

決まった時間や介助者の都合で、食事を与えられるのでは無く、空腹であるからこそ食事が美味しく食べられると言う当たり前の事「空腹は最高のスパイス」である。

以前、訪問介護で胃瘻の利用者さんにかかわった事があった事を思い出します。
胃瘻造設しながら、口からも摂取していたが、食べれなくなってからは、注入する量が増え体重も増える。体位変換も大変になり褥瘡もできた。

意志表示ができない本人の声なしに、本人が望む事、何が人間らしいのか疑問に思う事が多く、又家族はどんな姿でも生きてほしい、大切な家族だからと献身的に介護をされますが、家族の将来にも支障がでる様にもな

った。本人が意思表示出来ていればなんと言おうだろうか・・・

全てではありませんが、胃瘻だけではなく、介護する側の思いで支援している事で、本人が必要としていない事は、介護する側の自己満足でしかない事が多くあるのではないかと感じることもあり悩むことも多いです。

老いて衰えていく本人を目の前にしている、家族さんの心の支えが必要である事、終末を迎えようとしている利用者さんを目の前に何ができるのか、一点ではなくいろんな方向で考えていきたいと思います。

(ケアマネージャー 吉川 弥生)
尼崎居宅介護支援事業連絡会研修
テーマ「医療連携と地域包括ケアシステム」
講師 前川 嘉彦氏 2月18日開催

個別の課題が地域の課題につながっている
「地域に～があったらいいな」

資源がなければ作り出して結びつける。現在、地域や園田苑で当たり前のようになっていることも、もとは制度も何もないところから地域住民のニーズを形にしてきたものが多く、「こういった経緯ではじまったのか」を知る人も少なくなっている現状が見られています。

私たちの役割としては、時代の風（医療、介護の法改正や社会情勢）と地域のニーズを把握し、既存のサービスにとらわれず、ないものは作っていく。今必要とされていることをやっていくしかないと思っています。

地域では住民の中で見守り、声かけ、安否確認ができる関係作りができてきました。ケアマネージャーはその関係の中に入らせてもらい、地域の力を最大限に活用していきたいと思っています。

サービス事業所や居宅のケアマネが地域の中で困っている利用者の個別の問題を共有し、必要であれば医療機関・地域包括や公的機関に報告・相談し、ご近所さんも巻き込んで地域の課題を解決できる、一緒に動かせる力になりたい。私たちはなれると信じて、これからも自転車で10分～15分ぐらいで行ける地域にこだわり続けていきたいと思っています。(ケアマネージャー河合 恵子)



住み慣れた地域、家で暮らす ～暮らし・思いを支える～

ホームヘルプの仕事は、皆様のお家に訪問をして、日常生活の中で困っていることのお手伝いをさせて頂くお仕事です。皆様が安心してご自宅で過ごせるように、いろんなお手伝いをさせて頂いています。

ある日のご利用者様的一天を通して、ホームヘルプの仕事をのぞいてみましょう！
2月某日 T様の1日のはじまり！はじまり～！！

8:00 「Tさん！おはようございます！今日はデイサービスに行く日です！」

ヘルパーの声掛けに、眠そうに起きてこられたTさん。温かいタオルで顔を拭いて頂き、準備していた服に着替えます。血圧や体温を測った後、ヘルパーが調理した朝ごはんをすすめます。今日のメニューはTさんのお好きなトースト。コーヒーと目玉焼きも忘れずに。その間に、ヘルパーはベットを整え、洗濯やデイの準備でバタバタ。そして食器の片付けをし、食後にお薬を飲んでもらい、歯磨きをしてデイのお迎えが来るまで、ヘルパーと話をしながら待ちます。「Tさん！いってらっしゃ～い！！」あっというまの1時間。



17:00 「Tさん！おかえりなさい！」

デイサービスで楽しいひと時を過ごし、Tさんのおかえりです！

飲み物を飲んで頂いている間に、ヘルパーが夕食の準備をします。夕食中にヘルパーは洗濯や片付けをします。

20:00 Tさんが安心して眠れているか、ヘルパーがご様子を確認に伺います。

時々、ベット下の床に寝ておられることも・・・。

ぐっすりと眠っているTさんを起こさないよう、洗濯の取入れなどをします。Tさんが起きていらっしゃる日は、安心して眠れるように、水分を摂って頂いたり、お話をさせて頂いたりしています。「Tさん！おやすみなさい！また明日。」

デイサービスに行かれない日には、厨房で作ったお弁当をお届けしています。

毎日の食事の買い物や、お部屋の掃除もさせて頂いています。

実費にはなりますが、介護保険では補えない通院や、入退院時の付き添い、入院中の洗濯、日常生活の範囲外の掃除等もご相談に応じます。まずは担当のケアマネージャーさんやお住いの地域包括支援センターにご相談ください。

～住み慣れた町、住み慣れたお家で、皆様が安心して過ごすお手伝いができますように～
園田苑ホームヘルパースタッフ一同より

美味しく食べて長生き ～グループハウス～

ハウスは月2回喫茶店を開催しています。そのひとつ「喫茶さくら」は毎月第4金曜日開いています。

始めるきっかけは、三反田の仮設から今の場所に引っ越してきて地域の方は「何だろう」と関心はあっても中にまで入って来て下さる方は全くと言って良いほどありませんでした。

「少しでも多くの方々にハウスに来ていただき高齢の入居者が毎日楽しく過ごしている姿を観て頂きたい」という思いからリビングを解放して喫茶を開催することにしました。

毎月何百枚というチラシを地域に配りましたが数年間は全く来て下さいませんでした。

それでも少しずつ参加して下さる方も増え、今では50人位の方が来て下さっています。



初めの頃からお手伝いして下さっている、ウクレレ演奏グループ「ハーフムーン」の優しい音色を聴きながら食事をした後は、紙芝居やウクレレで歌って踊っての楽しみの時間やハウスの見学会もしています。

毎月楽しみにしてくださっている方に季節に合わせたメニューでお迎えしています。

そして、もう一つは「喫茶さくらモーニング」入居者の何気ない一言「昔はよくモーニング食べにいったなー」との話から、近くでやっていたらお連れしようと探しましたが「大きい踏み切りを渡るの怖いー」「入口に階段があって登るの自信が無いわー」など

入居者の方が気楽に行ける店が近くにありませんでした。「ならばハウスの中でしましょう」と思い立ち第2日曜日朝8時から開店しています。

皆さんに本物の喫茶の雰囲気味わって頂こうと日曜日の朝(なぜってお休みの電話も鳴らず静かだから)に決めました。



ランチョンマットと静かな音楽。分厚いトーストにサラダや果物。おまけにコーヒーは飲み放題。皆さんゆったりと1時間くらいかけて頂きます。

定番メニューの他にホットドックや菓子パンを選ぶ日など毎月皆さんの希望を聞いて考えていきます。



食べることが大好きなハウスの皆さん。美味しく頂くのが長生きの秘訣かもしれません。皆さんもぜひのぞいてみてください。大歓迎いたします。

(グループハウス 主任 下木 薫子)

知識だけでなく行動し熟知する ～避難訓練実施～

1月16日に利用者の方々と避難訓練を実施しました。

この日はデイサービス内の厨房から出火するという想定で行われました。実際に訓練を終えて感じた事は、例えば丸椅子が避難経路の障害になっており、日頃からテーブルの下に直す習慣を心掛ける必要性を感じた事や、実際の避難時には入浴中・トイレ使用中・ベッドに横になられている利用者もおられる為、避難誘導を実施しながらも他職員へ大声でその利用者の方々への的確な避難誘導の指示を出す必要がある事。また、利用者や職員の所在確認に気が取られ、近隣住民の方々への避難を呼び掛けるイメージが出来ていなかった事等、多くの気づきや反省がありました。

今回は火災想定での避難訓練となりましたが、近年、東海・東南海・南海地震がいつ起きてもおかしくない現在、防災訓練を知識として理解するだけではなく、行動を通して熟知していく事が何よりも大切であると感じました。今後も利用者や地域住民の方々と共に、継続的に防災意識を高め合っていきたいと思います。

(認知症対応型通所介護

ヘルパー 小坂 耕治)



「大正琴の演奏会に出かけました」

先日、数名のご利用者様と一緒に近所の小中島会館で行われた大正琴の演奏会に出かけました。デイサービスにも隔月で大正琴を弾きにきて下さっており、互いに顔なじみになっている方が多く、気さくに言葉を交わされていました。また、デイサービス利用前からのお知り合い同士もおられ、久しぶりの再会を喜ばれていました。

この日は2月28日。春が目の前までやってきているということで、春をテーマにした曲を数多く演奏して下さいました。気分もウキウキと盛り上がり、好きな曲を歌いながら手で踊るようなそぶりを見せて下さる方もいらっしゃいました。この演奏会のラストは、阪神タイガースの「六甲おろし」が定番。額にはトラ柄のハチマキを巻きつけ、腕を振り上げながら大合唱しました。



演奏会が終わった後も、みなさん興奮冷めやらぬ様子で「楽しかった!!」「良かったね～」「また連れてきてな～」などと話しながら、利用者様の顔には笑顔が溢れていました。

(認知症対応型通所介護 ヘルパー 湯川 愛海)

併設サービス ～両デイ合同家族会総会～

2月28日日曜日、併設サービス・認知症サービス合同の家族会の総会が開かれました。家族会が再発足して丸3年、亡くなられる利用者さんもおられ、なかなか定着しない家族会メンバーの中で、少しずつでもご家族の不安は解消され、会としても熟成されるお手伝いが、デイサービス職員としてできているのだろうか？と自問自答した1年でした。

それをふまえ今年度は外出などのイベントだけではなく、定例会や勉強会、お食事会を通して御家族様同士が話す機会が増やされました。

今回の定例会には14家族にご参加いただき、総会開催前から御家族様同士で「ちょっとあとで話しよー」「私の話も聞いてー」などの会話がされており、メールのやりとりをされている御家族様もおられることが分かりました。また、家族会の集まりで再開された同じ地域の御家族がおられたりと、微力ながら再発足をお手伝いさせていただいたこと、継続のサポートをさせてもらってきたことが無駄じゃなかった！と感じることができ、職員一同とても感動しました。



まだまだ動き出したばかりの家族会、今後も少しでもたくさんの在宅介護を頑張られている御家族の不安が拭えたり、気持ちが軽くなるような会になるよう、いつまでも地域で暮らせる町づくりに、デイサービスとして関われたらと思います。

併設サービス 生活相談員 深津智子

デイサービスつづれ草紙

2月14日、毎年恒例の“淡路島大根抜き”へ行ってきました。お世話になっている明石農園さんのお手伝いと称しながら、みなさんの優しさに触れ身も心もリフレッシュ～
収穫した大根は、デイサービスの皆さんの手で沢庵漬けになってきました。



節分の日には厨房さん手作りの“鬼の子シュークリーム”がおやつにできました！

ひな祭りの日は“酒粕ムース”と“桜餅風お寿司”が出ましたよ♪

季節を感じられるお食事を提供していただいています。



訪問入浴

～最後までくつろいでほしい～

訪問入浴は御自宅へ浴槽を運び入れ、お風呂に入って頂くサービスです。

主にデイサービスへ通うことが難しい重度の方や、場合によっては終末期の方のお手伝いをさせてもらっています。

以前、続けて2軒ほど、終末期のご依頼がありました。なかなか日程が合わず、調整をしている間にお亡くなりになられてしまい、お風呂に入って頂けず、苦しい思いをしました。今までたくさんの方の、湯船につかった時の気持ちよさそうなお顔を見てきているので、最期に入れて差し上げられなかったことは自分達の後悔にもなっています。

先日、末期がんのお若い女性のご依頼をいただきました。静脈栄養と腹水の排出のチューブが体に繋がれており、血圧もかなり低い状態とのこと。体の急変のリスクが高い方でしたが、すぐにお伺いし、まずはそのリスクを整理し、調整に入りました。訪問させていただいた際の、御本人様の“お風呂に入りたい”という強い思いも感じ、帰苑後すぐに主治医にご相談させていただき、次の日には入浴の実施に至りました。

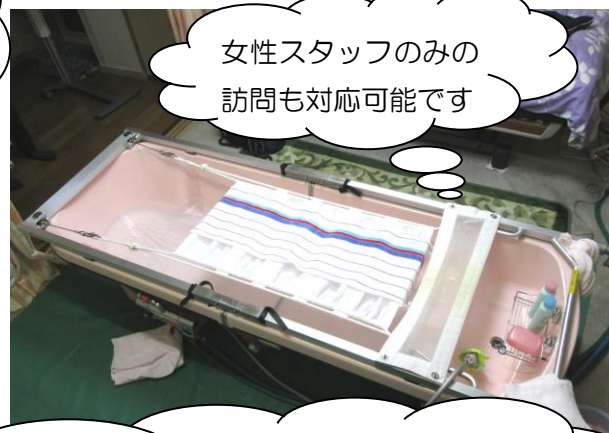
入浴の際にはご主人、お子様、主治医の手配で訪問看護師さんも2名来て下さりました。たくさんの方々に見守られ、無事入浴することができました。とてもくつろいだ表情で湯船につかれ、皆で喜びました。次の入浴日を設定し帰りましたが、数日後に亡くなられたというご連絡を頂きました。もっとお風呂に入って頂きたかった思いでいっぱいでしたが、最後の表情は今でも忘れません。

ご利用者様に“気持ちよかったぁ”と笑顔がもらえるこの仕事が私は大好きです。

訪問入浴看護師 古関 恵子



浴槽が分かれませんが水漏れの心配はありません！



女性スタッフのみの訪問も対応可能です

訪問入浴車は軽自動車です。路地もスイスイ～



ご自宅から水を頂き車中のタンクへ。給湯器からのお湯が浴槽に運ばれます。マンション等高層住宅も対応可能です

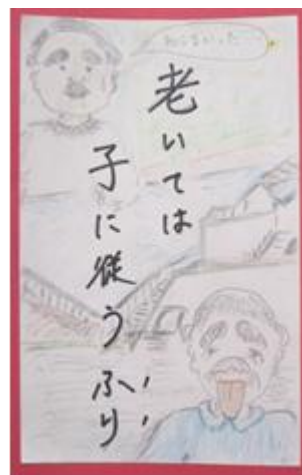


私らしく過ごせるところ ～小規模多機能型居宅介護～

悩みながら走ってきた1年

園田苑の小規模が開設して、もうすぐ1年です。悩みながら走ってきた1年を振り返る意味も込め、1月21・22日に全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の全国大会で事例発表を行ってきました。他の小規模の取り組み報告を聞いて、まだまだ自分が出来ていないことに痛感しながら、また頑張ろうという元気をもらえた大会でした。園田苑の小規模では、認知症の方が安心して過ごせる環境作りをテーマに1人の方の事例を用いて発表を行いました。その方は視覚や聴覚から入る情報量が多すぎると混乱し、周囲の方とトラブルになることが多くありました。小規模の個室を使用し、視覚と聴覚の情報を制限しながら、本人が得意な活動を導入し、職員など他者からその活動を通して傾聴、共感をするという一連の関わりでその混乱を一時的に和らげることが出来たという内容です。これは、あくまでも1人のお話で、認知症ケアにマニュアルなど無いのだと痛感しています。大切なのは「何故？と常日頃に考えること」「今、どんな気持ちなのか察する・聞く」「否定しないで尊重する」という基本的なことなのではないかと思います。

先日、こんなことがありました。昼食の準備を利用者さんと一緒に行っていた時、ある方にお茶を配って頂くことをお願いしたのですが、その日はうまく行えず、混乱され、外に飛び出すように出てしまわれたことがありました。それは、私が「お茶はここに置くのではないですよ」と伝えたことが混乱に発展してしまったのです。何とひどいことをしてしまったのかと申し訳ない気持ちになりながら、私も外に飛び出して、ドライブしながら関係を修復し、また小規模に戻った次第です。気付かないうちに相手を傷つけていること、そのせいで認知症の周辺症状が前面に出てしまうことがあるのです。問題があるのは、どちらの方なのか。まだまだ未熟者です。



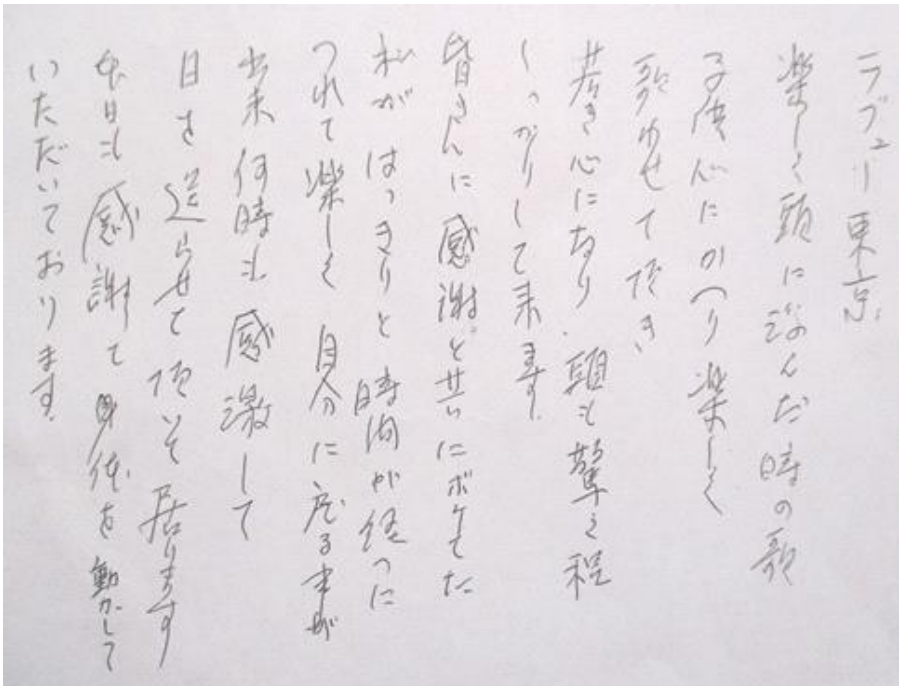
本人・家族の思いを知り、理解しあえる関係作りを



1月31日、モーニング喫茶Zenで尼崎市認知症介護者の会会長の安藤一夫さんに「認知症について」講座を開いて頂きました。地域の方、利用者ご家族の方などが参加して下さいました。講座の中で最も印象深かったのが「家族と福祉職員はもっと相互理解しなければならない」ということ、「ケアプランが分かりにくい」などの色々な声も挙がり、私たち自身（職員）も知らないこと、気付いていないことが沢山あるのだと思いました。介護保険がもっと利用者本位であるために、私たちのサービスを見直すために、家族の意見や思いをもっと知らなければならないと感じました。

（小規模多機能型居宅介護 園田苑 管理者 秀石 直美）

一緒に歌を歌った後に利用者さんが書いてくれた手記。
認知症の葛藤と混乱の世界のなか、歌で自分を取り戻せた時間があることに気付く。
自分たちのするべきことを導いてくれたきっかけになった。
「あなたの『自分』を取り戻せるような場所でありたい」



私のお気に入りの部屋



ある日の午後。
こたつで昼寝もいいですね。

全ては目の前の利用者さんのために

～デイサービス Zenの1年～

2015年の1月・2月は、開設準備を行いながら、ケアマネジャーの仕事もこなし、大変だったことを思い出します。

開設当初は、利用者数も少なかったですが、今では、定員を超えそうな曜日もあります。

大きな事故もなく、あっというまの1年でしたが、これも皆様のお力添えと感謝しております。

決して現状に満足せず、1年は、あくまでも通過点であり、これからも「全ては、目の前の利用者さんのために」を念頭に職員一丸となって今後ともいいデイサービスを地域に展開し、築き上げていきたいと思ひます。

(デイサービスセンターZen 管理者 西井 明夫)



こども食堂 ～in野土香～

昨今、ニュースなどでもよく取り上げられている子どもと食事の問題。

朝を食べずに学校に出かける子ども、夕食も一人でジャンクフードを食べる子ども。

毎年冬になるとインフルエンザにかかる職員や子供たちを見ていると、基礎体力のなさを感じざるを得ず、それはまさに、食べることに直結している。

特養の入居者がお元気に過ごされているのは、まさに食に生かされていると断言できる。

『Zen』『小規模』がオープンして間もなく、小規模には24時間人がいるから、『Zen』の朝、誰か喫茶店やってくれて、地域の人や、ごはんを食べない子どもたちが学校へ行く前に立ち寄れる場所にしたいと言っていた。

勿論、そんなうまい話があるわけもなく、月1回日曜日の朝「モーニング喫茶Zen」に甘んじている次第。

そんな時に戸ノ内「野土香」で「こども食堂」してくれないかとお声がかかり、それこそ断る理由もなく引き受けた。

幸いなことに戸ノ内には、中曽さんを中心とした【陽だまり】というボランティアグループがあり、すでに月、火、金には食事会での食事を引き受けてくれている。

尼崎市こども政策課の内田ワーカー、園田社協の長町さん、中曽さんを交えた打ち合わせでは、「子どものアレルギーが気になる」「ボランティアだけではしんどい」との中曽さんの発言に「問題は問題として、私たちもフォローします」とのみんなの声掛けに「それならやろう」とゴーサインが出ました。

とりあえず、春休み一人で昼ごはんを食べる子どもたちを対象に 3/22、23、28、29、30、4/4、5、6の月、火、水の11時から2時に開催致します。なにせ、資金援助のない形での開始になります。ボランティアで参加したいとご連絡くださった方、お米で良ければと現物支給してくださる方、カンパは現在5000円程度。それでも少しずつ進んでいます。

皆様のお力も借りながら、「こども食堂」を完成させたいと思っています。

いつの日か、朝でも夜でもそこにいけば、こどもであれ、お年寄りであれ、誰かと、何かと出会える場所を地域にいっぱい作っていきましょう。

編集後記

長男が一日だけ中学に通い本日卒業。身長は170cmを超えましたが、心の成長はまだまだ途中。家の中でできる事は限界。地域デビューできるきっかけをただ今模索中。
(きんたろう)

春が近づいて、自分の周りがかんざし。寒くて止まっていた色んな時間が動き出したように嬉しい。花粉症に負けている場合じゃないな。
(きりん)

いつも、一人でも多くの誰かの幸せの役に立てればと思って仕事をして来ました。
自分も幸せなことが周りの幸せになるなんて。。。学ぶことばかりです。これからも成長していきたい。

ある研修後の交流会で、他施設の介護職員が、「入居者と外出したいんですけど、他の職員に気を使ってなかなか言えません。どうしたらいいでしょう？」と尋ねていた。
(酒浴女)

「外出している間は、残っている者にまかせて行っておいで、大丈夫だよ。と言える人がいるかどうか。まず上の職員が行って来いと云ってあげることだね。そして次は、残っているもがんばれる」と他の施設の職員が真剣に答えていた。

あ、うちだって同じ悩みを持っているだろうに。だけど思う。一十一二でも、一十一が二、五や三になりえる力を貴方たちは秘めているんだということを書いていない、まだ足踏みしている自分を見つけた。
(野の花)